

編集 後記

第63巻1号をお届けいたします。本号では、短報1編、公衆衛生活動報告1編、研究ノート2編を掲載しています。

短報は、福島県民を対象とした福島県「県民健康調査」より、避難状況と運動習慣の関連をまとめた論文です。運動習慣のある者の割合は、震災時の居住地および住居形態によって差が認められたことなどが報告されています。とくに借家アパートに居住している者における割合が低く、孤立した人々を対象とした新たな生活習慣病予防対策の必要性が述べられています。

公衆衛生活動報告では、介護・福祉職員の感染対策のさらなるレベルアップを図るために鹿児島市で企画、実施された感染対策セミナーについて報告されました。不十分な予防策がとられている一方で、過剰で不必要な感染対策が行われている実態が明らかになったと述べられています。

研究ノートとして、1編は震災による疾患発生・死亡への影響を検討した疫学研究・保健医療統計調査を対象に実施された系統的文献レビューの結果が報告されました。疾患により震災発生からの経過時間と疾患発生のパターンに大きな違いがあることが述べられています。もう1編は、保健師と、自殺対策に取り組むNPO等支援団体との協働の方法を明らかにする目的で行われた研究です。半構造化面接の結果明らかになってきた協働の方法について述べられています。

まさに本号掲載論文のトピックがそうであるように、公衆衛生の課題はその時々を反映して幅広く、尽きることがありません。また、科学的に重要な研究と、現場に役立つ実践報告がともに必要であることも公衆衛生の特徴かもしれません。本誌が、我が国の公衆衛生の発展を支える貴重な情報発信源である続けるために、皆様からのさらなる投稿をお待ち申し上げます。

(西脇祐司)

次号予告 (第63巻・第2号)

公衆衛生活動報告

岩手県陸前高田市未来図会議が果たしてきた役割
～災害対応計画へのモデルとして～

.....西原三佳, 他

アンケート調査による入浴事故対策事業の評価

.....松田友子, 他

東日本大震災津波における宮古保健所による医療
救護活動の調整過程.....柳原博樹